

シズムに就ては断乎として排撃するところのものである。

### ストライキ決行に就て

労働組合の當面の任務は労働者の生活権擁護であり、労働条件の維持改善にある。

ストライキはその任務遂行の爲の（已むを得ぬ）一手段であつて、ストライキの組合の唯一の目的でもなければ任務でもない。それ故にストライキが労働者の武器としてその威力を完全に發揮し得るかは、労働者當面の生活と豊富にするための、決行す所は労働条件改善のための斗争に開かぬ限り、最も強方に發揮し得るものではない。従つてストライキは経済的戦、それも直接的なものに開かぬ限り、これによつて、その力を十分に示し得るのである。

この事が充分に力ればストライキを決行するのも、また結末をいつけるのも労働者の生活と豊富にすることを中心にして決定せなければならぬものである。

この通り切つた事を云つてゐるのは、ストライキをやりにせずればよいと考へてゐる連環を打破する爲であり、またストライキを政治的に利用しやうとする者へに戒

心を加へんが爲である。その意味は、ストライキをやりにせずればよいと考へ、また政治的に煽動しても、そこに実益のない限り労働者は動かないものであるといふ美を指摘してゐるものである。

初期に於ては運動に対する無智と斗争の方法を知らない爲に、労働者はその胸に抱く無限の不平の故に煽動に乗つたことはあつた。しかしそんな無責任な方法によつたストライキは必ず惨敗し、その惨敗の故に二度と再び労働組合やストライキには参加せぬなどと放言する労働者もあつた。これ明らかに反動化せしめたる指導の失敗である。

故にストライキは、直面的な実利主義に立脚せなければならぬ。それを政治運動や革命に使はうとする處に矛盾があり破局がある。政治的のせすスト、サンジカリメントの總同盟罷業などとなふものと現実のストライキと混同する事は、ストライキを失敗せしめるものであつて戒心せなければならぬ事だ。

要するにストライキは直截簡明な経済問題として取扱ふべき事を主張するのである。 ⑦